



1 お知らせ

* 防災訓練の実施



先月【避難訓練】月間としており、1週間トレーニングの中で避難・防災について学びました。
 「教室で火事になったらどうする?」「地震がきたらどうする?」と指導員が質問したりクイズを出題するなどして子ども達と一緒に考えました。
 ハッピーテラス与野教室は、エレベーターを使用するため「エレベーターに閉じ込められたらどうするか?」についても考えました。
 子ども達は、今までの知識や避難訓練の経験を活かして考えることや実際にやってみながら「知らないと命に関わるし、知っていれば助かるかもしれないね」と話しながら”もしも”に備えることができました。

2 トレーニングテーマ

与野教室

- 1日 作文
- 3日～8日 他人への気遣い
- 11日～15日 服装
- 17日～22日 説明の読み取り
- 24日～29日 友達作り

与野本町教室

与野本町教室は個別トレーニングのため、トレーニングテーマは個人によって変更させていただきます。

3 職員からの推薦図書

- 題名 ポケモン空想科学読本I
- 著者名 柳田 理科雄
- 参考価格 726円(amazon)
- 推薦者 大場 健(川越教室)



リザードンの炎は、科学的に考えると4215℃以上!?
 太陽の黒点なみの高温を前に、はたしてサトシは無事でいられるのか!?
 注)太陽の表面温度は約6000℃、黒点の温度は約4500℃です。

4 おうちでキッズコーディネーション

～めざせ大谷君～ 難易度★★★★☆

- ねらい
- ・すばやく正しく反応する
 - ・周りや人のものと、自分の位置の関係をつかむ
 - ・手先や足先、道具を使いこなす

- 準備物
- ・バット(新聞紙などを楕形に丸めて作成した、固すぎないもの)
 - ・ボール(新聞紙などを楕形に丸めて作成した、固すぎないもの)
- ☆子どもは保護者に対してまっすぐ向かって立ってしまいがちなので、足を置く場所にテープを貼るなどして、目印を付けてあげてください。

- 進め方
- ① 新聞紙や段ボールを丸めたり、ラップの芯などで、4～50cmくらいのバットを作ります。
 - ② ハンカチや新聞など、あまり重くないものを丸めて、ボールを作ります。
 - ③ 保護者と子どもが2～3m離れて立ち、子どもは保護者に対してバットを持って横向きにかまえます。
 - ④ 保護者がボールを投げて、子どもはバットで打ち返します。



本トレーニング動画は、YouTubeにてハッピーテラスのご利用者様に対し、限定公開されたものです。ハッピーテラスのご利用者様以外の方にURLをお知らせされないようお願いいたします。

5 10月の追加ご利用可能日程

各教室において、下記の日程で定員の空きがございます。追加でご利用される場合にご参考ください。

(記号：○・・・空きがございます △・・・若干名の空きがございます)

日付	1	3	4	5	6	7	8	10	11	12	13	14	15	17	18	19	20	21	22	24	25	26	27	28	29	31	
曜日	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土	月	
与野教室	×	△	△	○	△	△	×	祝	×	○	○	×	×	△	△	○	○	△	×	○	△	△	△	×	×	×	
与野本町教室	与野本町教室は個別療育のため、随時個別にご案内いたします。																										

* 追加については、お電話でも受け付けます。

6 療育コラム 「アサーティブな関わり おさらい」

今回は、少し前に皆様にご協力いただいた各教室の保護者様アンケートのHappy通信の項目で【定期的にアサーションについて、振り返る機会があると良いと思えました】というコメントを受けまして、アサーティブな関わりについて振り返る機会とさせていただければと思います。改めて、アンケートにコメントを下された保護者の皆様、本当にありがとうございます。どのような内容を皆様が求めなのか示していただける事、非常に励みになります。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございます。

それでは、本題に入りたいと思います。以前もお話させていただいた通り、アサーティブな関わりとは、自分だけでなく相手も大切にすることを指します。ここで言う、【自分を大切にする】関わりとは、他者に意見を伝える際、相手に遠慮をせずに、伝えたい事を全て伝える、という意味合いになります。一方の【相手も大切にする】関わりとは、他者の意見に興味を持って聞き、尊重する、という意味合いになります。つまり、双方が相手に伝えたい事を全て伝え合った上で、自分の意見も相手の意見も尊重する事が、アサーティブな関わり、というわけです。

このように文章にしてみると、理屈としては理解できるけれども、果たして本当にそんな事ができるのか、不可能ではないか、と感じられる方も多く思われます。特に日本では、相手に対して遠慮する事を重んじる文化があります。これによって、自分の伝えたい事を全て率直に他者に伝える、という事自体が暗黙の了解で良しとされないため、アサーティブな関りの難しさに、大きく関係しているように思います。しかし【遠慮をする】という事は、アサーティブな関りの観点から【自分を大切にしていない】という事になります。片側の人が遠慮をする事で、不満が蓄積され、時には【(私が) 譲ってあげた】という想いに繋がる事もあるかもしれません。

では、両方の人がお互いに遠慮をし合うと、どのような事になるのでしょうか？
こうなると、今度は、お互いに伝えたい事の一部しか伝える事ができず、最悪は、話し合いや関わりそのものに意味がなくなってしまうことすらあります。
ともあれ、先述の通り、アサーションな関りは、意識して取り組んでいかないと、なかなか難しい関わりと言えます。そこで、最後に、以下に取り組んでいく際に意識していくと良いポイントをご紹介します。

①相手の考えを最後まで聞く

→自分とは全く違う見解であっても、否定や反論をせずに最後まで聞く事で、相手が率直に意見を伝える事ができるだけでなく、こちらが率直に意見を伝える事の促進にも繋がっていく可能性があります。

②相手の言い分を聞いた上で、自分の考えを率直に伝える

→先に聞いた相手の意見を踏まえながら、自分はどのような考えであったかを率直に伝えます。この際、自身の正当性を説くのではなく、あくまで自分はこう感じた、という話し方だと相手が受け取り易いように感じます。また、先に聞いた相手の考えを受けて、新たに気付いたことなどを交えて話せると、より話し合いが促進されるように感じます。

③落としどころを話し合う

→お互いに率直な考えを示した上で、お互いが納得できる結論を話し合います。この際の落としどころは決して片側にだけ利益が出るのではなく、双方に同程度利益があり、また、同程度に不利益がある内容ですと、お互いに納得しやすいかと思われれます。

いかがでしたでしょうか。

以前もご説明した通り、保護者や先生からの注意や叱責等は、一般的に、それを受ける側に対して、一方的に相手を従わせるような性質があるため、受け入れ難いものですが、アサーティブな関りのように、お互いの考えを尊重しながら、しっかりと意見を伝え合う事ができると、不思議と折衷案が上手く相談できたという経験は、私自身も記憶があります。日々の生活の中で、毎回は難しいですが、部分的にでも取り組んでいけると、良い関係性の構築やストレスの緩和、そして、率直に意見を伝える事の促進にも繋がっているため、心の片隅にでも留め置いていただけますと幸いです。重ね重ね保護者アンケートにてリクエストいただき、ありがとうございました。また、当コラムにて、取り挙げてほしい内容等がございましたら、お気軽に来所されている教室の職員まで、ご相談いただけますと幸いです。それでは、また次回のコラムでお会いしましょう。